ちよだアートスクエア(仮称)の設置について

（答申）

平成 19 年 12 月

ちよだアートスクエア実施委員会

目　次

はじめに　・・・　2

答申にあたって
　　ちよだアートスクエア実施委員会　委員長　西野万里　　・・・・・・・・・・・・・　3

ちよだアートスクエア実施委員会　委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

ちよだアートスクエアに関する検討の経緯(検討会まで)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

ちよだアートスクエア実施委員会からの答申　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

1. ちよだアートスクエアの位置づけ
2. ちよだアートスクエアの目的
3. ちよだアートスクエアの対象となる区民
4. ちよだアートスクエアの基本方針
5. 設置場所、設置時期、設置期間の概要
6. ちよだアートスクエアの機能構成
7. 想定されるプログラム
8. 運営方法の枠組み(案)
9. 運営団体の選出方法
10. 改修に際し配慮する点

各委員意見　・・・　14

＜資料＞・・・　23
ちよだアートスクエア実施委員会設置要綱
ちよだアートスクエア実施委員会開催経過
ちよだアートスクエア実施委員会のこれまでの検討経過（骨子）
旧練成中学校各階平面図

はじめに

千代田区では、平成16年3月に策定した「千代田区文化芸術基本条例」に基づく文化芸術の施策を、総合的かつ計画的に推進するため、平成17年1月に「千代田区文化芸術プラン」を策定し、文化芸術のエネルギーあふれる魅力あるまちづくりを推進している。

ちよだアートスクエアは、この文化芸術プランにおける重点プロジェクトとして、平成17年9月から「ちよだアートスクエア検討会」において検討が重ねられ、平成18年10月には同検討会より、千代田区あてに、「ちよだアートスクエア構想の提言」が提出されている。

ちよだアートスクエア実施委員会では、この「ちよだアートスクエア構想の提言」を踏まえ、ちよだアートスクエアのオープンに向け、設置すべき機能や想定されるプログラム、施設の利用方法、運営方法など、ハードおよびソフトの両面から、さまざまな検証及び議論を行い、ちよだアートスクエアを実現するための具体的な検討を行った。

この提言は、委員会において、ちよだアートスクエアのあるべき姿が細部に至るまで活発に議論され、ちよだアートスクエアを実現するための具体的な枠組みとして取りまとめられたものである。ここに、ちよだアートスクエア実施委員会での検討結果として、千代田区ならではの、文化芸術の発展に向けた「ちよだアートスクエアの設置について」をまとめ、千代田区あてに答申する。

ちよだアートスクエア実施委員会

平成19年12月

答申にあたって

ちよだアートスクエア実施委員会　委員長
明治大学商学部教授
西野　万里

私たちは人類の進歩の結果もたらされた最先端技術の粋を集めた都市で、何にでもすぐ手の届く便利な生活、外見上は豊かで満ち足りた生活を送っている。しかし、実際にはこれと引き換えに、澄んだ空気、豊かな緑、静寂、美しい星空など多くのものを失いつつあり、知らず知らずのうちに生活の質は阻害されている。 今ほど心の癒しを必要とする時代はないといえよう。

人類は生活にゆとりを見出せる段階に至ると、喜び、驚きなどの感動を表現し人に伝える活動にいそしむようになった。 これらが文化・芸術分野の作品を生み出し、それにじかに触れたり、自ら創作活動にかかわるとき、私たちもまた感動し、精神生活の質は大いに高められる。

千代田区は優れた有形・無形の江戸文化遺産を継承する一方で、新旧の芸術・文化活動に供される多数のハードウェアにも恵まれた地域であり、また文化・芸術の表現方法や伝達方法に新たな可能性を付け加えつつあるITの拠点「秋葉原」も抱えた稀有の地域である。「ちよだアートスクウェア」はこれらを存分に活用して、新旧の文化・芸術に関する情報を発信し、人々の文化・芸術諸活動を支援することを通じて、人々の生活の質を高めることを目的とする。このように地方公共財・サービスがナショナル・ミニマムの水準をはるかに超える役割を果たす様相はこの国の豊かさの象徴でもある。千代田区はまさにこの役割を果たすのにもっとも相応しい条件を備えていると考える。アートスクエア支援活動の便益は千代田区にかかわる全ての人々―4 万 5 千人の住民を中心に、区内のオフィス、官庁、学校等に通う85 万人を越える「昼間区民」、および一時的な来訪者―に提供される。

この構想は平成 17 年に立ち上げられた「ちよだアートスクエア検討会」から提出された「提言」を踏まえて、平成 18 年末に区長の諮問を受けた「ちよだアートスクエア実施委員会」に継承された。後者では構想の理念の具体化について様ざまの角度から検討が加えられ、活発な議論を経て「実施」に至る道筋を示した。それをまとめたものがこの「答申」である。委員会は千代田区在住の区民代表、NPO 関係者、地域の大学、博物館、劇場等の関係者など多彩な専門的背景を持つメンバーから構成され、それぞれのもつ理想のイメージを１つの形に収斂させるとともに、その具現化に向けて熱い議論を積み重ねた。

「ちよだアートスクエア」の活動が実際に立ち上げられた暁には、その運営は区の直接的関与を必要最低限として民間の手に委ねられる。 区は民間運営団体や活動参加者のよきパートナーとして、ハード面や財政面で一定の支援を行うことになる。いま撒かれようとしている種が将来、大きく成長して青々と葉を茂らせる姿を想像するとき、思わず胸が高鳴ってくるのを覚える。